

学校名	伊達市立大石小学校	校長	佐藤 由弘
住所	〒960-0804 伊達市霊山町大石字三ノ輪27	TEL	024-587-1315
HPアドレス	http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=0710105		

パフォーマンスアート「桑の実が見る夢」

地震と原発事故で「ふるさと」は大きく傷つきました。傷ついた「ふるさと」に心を痛み、「ふるさと」への自分たちの思いを形にしたいと考え、総合的な学習の時間で学んだことをもとに、子どもたちは「ふるさと霊山に生きること」「家族」をテーマに全校児童34名で演劇づくりに取り組みました。

2月3日(日)の学習発表会で、オリジナル劇「桑の実が見る夢」を発表しました。当日は、体育館に200名近くの皆さんが足を運んでくださいました。観客の皆様方からは、子どもたちの熱演に惜しめない拍手をいただきました。1年間の取り組みの様子を紹介します。



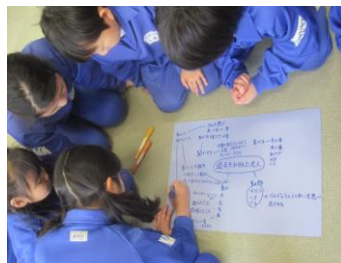
<東京のアーティスト達との出会い(6月)> <表現のワークショップ(7月~12月)>



復興教育支援事業により、NPO法人3.11子ども文庫の支援を受け、演出家、役者さんなど、東京のアーティストの皆さんと出会いました。



<台本作り(9月~12月)>



演出家・木村準さんをはじめ「お絵かきサーカス団」の役者の皆さんによる「表現する」をテーマにワークショップ。児童は、身体、言葉、音楽で、自らの思いや感覚を「表現する」ことを体験しました。

総合的な学習の時間で学んだ「地域学習」をベースに、「ふるさと」「家族」について子どもたちが考え、議論し、演出家・木村準さんにアドバイスをもらいながら、自分たちが発信したいことを明確にし、台本という形に落とし込んでいきました。



<舞台稽古(1月)>

舞台稽古は、その場面のイメージを子どもたちが自由に台詞にして自分たちで表現し、それに対して演出を加えていくというスタイル。子どもたちは、その場で考え、相手の台詞や動きに合わせて、さらに台詞や動きを考え、表現する力を身につけました。

<学習発表会「桑の実が見る夢」(2月)>

<ストーリー>

一人の老人が人生の終わりを迎えようとしている。自分は、何のために生まれ、何のために生きてきたのか……。舞台は、老人の思い出の中。セーターのおばさんが、老人を誘い、時間旅行の世界へ。やがて、マルベリーの少女と出逢った、懐かしいあの時へ……。

当日、観客の中には、感動から涙を流す方も多くいらっしゃいました。子どもたちの熱演に対して、惜しめない拍手が会場を包みました。

一つのテーマに向かって、みんなで協力して、お互いの良さを認め合い、それを最大限に生かし、人を幸せにする作品を作り上げたという体験は、子どもたちにとって、大きな、大きな自信となりました。

